

本論文は

世界経済評論 2016 年11/12月号

(2016 年 9 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



定期購読
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

SRIとは英語のSocially Responsible Investmentの略で、社会的責任投資と訳されています。株式や投資信託を購入する、自分の銀行口座に預金をする、債券を買う、保険に入るといった、自分の金融行動が社会的に何をもたらすかということ意識することの総称です。つまり、自分の金融行動には社会的責任が伴うということ意識して投資することです。

SRIの発祥は、19世紀イギリスのキリスト教会で奴隷貿易に反対して資金を集め、奴隷を解放したり、1920年代のアメリカで、教会の基金を酒、タバコ、ギャンブルに関わる企業へ投資することを組織的に忌避したことにはじまると言われています。コーランの教義に沿って、厳しく運用ルールが定められているイスラム金融もSRIとみなす考え方もあります。このように、限られたサークルの中の宗教的信念に沿った投資手法だったものが、1960年代～1980年代に、ベトナム戦争に反対して、軍需産業への投資をボイコットしたり、南アフリカのアパルトヘイトをやめさせるため、南アへの投資から利益をあげている企業の株式を売却する運動に発展するなど、社会的な広がりを持ってきました。1990年代には、地球環境問題への危機感から環境配慮型の投資をする金融商品、グリーンファンドが誕生しました。

アジア初のSRI型金融商品は1999年8月、日本で当社と日興証券グループによって開発、販売された日興エコファンドという投資信託です。これは投資する企業を財務的な観点からだけでなく、環境問題への取り組みや、その取り組みがどう経営の競争力に結びつき、企業の成長につながり、長期的には株価の上昇をもたらすかということもチェックし

て、評価する運用のやり方です。

金融のプロと言われる人たちからは、「人間はお金がすべて。もっともっとお金が欲しいと思うのが人間の性だから、自分のお金を動かすことで社会が良くなるとか、環境問題に貢献するとか、こういうことに期待する投資家はいない。商品として成り立つわけがない」と言われました。ところが、日興エコファンドが発売されると、2週間で230億円も売れる大ヒットとなり、4カ月で資産残高は1000億円になりました。

またこの商品を購入した投資家の99%が個人で、女性と若者、そして、今まで証券会社に口座を持っていなかった人達が大多数であった

ことから「新しい金融商品のコンセプトに新しい投資家がついた」と

メディアでも大いに喧伝され、6カ月で市場規模が2000億円というブームになり、それと共に企業の環境への取り組みや情報開示が進み、海外投資家の評価が一挙に高まりました。

しかし、その後、日本の株式市場の低迷と共に失速し、市場規模はいっきよにシュリンク、その間に欧米では、SRIは巨大なマーケットになり、現在約21兆ドルの市場規模、日本は75億ドルで全世界の0.04%です¹⁾。

日本の市場規模が極端に小さいのは、SRIの三大プレーヤーである、公的年金、労働組合、宗教団体のお金がほとんど動かなかったからです。しかし、ここにきて、世界最大の公的年金である日本の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が、SRIの最新テーマであるESG投資に乗り出すことを表明、流れが大きく変わろうとしています。企業がESG(Environmental(環境), Social(社会), Governance(企業統治:ガバナンス))の課題に適切に配慮・対応する

SRIが変える 金融の未来と 日本の女性

こと、また、そのことを評価して投資する株主の存在が、地球環境問題や社会的な課題の解決・改善、さらに、資本市場の健全な育成・発展につながり、持続可能な社会の形成に寄与するとみなされており、ESGに配慮している企業は、経営の持続的な成長が見込めるとして、投資パフォーマンス向上にもつながると捉えられるようになったのです。

日本の金融資産は、個人1,741兆円、企業の余資のうち証券が344兆円、現金・預金が246兆円²⁾、年金資金365兆円、保険会社準備金170兆円³⁾、タンス預金41.7兆円⁴⁾、また非公表の労働組合、宗教団体の資金も加えると巨大なものがあります。特に1,741兆円の個人金融資産のうち、株式投資は169兆円(9.7%)のみです⁵⁾。ここにSRIが積極的に導入され、個人投資家が、経営のプロセスにESGの課題が適切に配慮、対応されているかどうかを投資基準とするようになれば、会社が変わり、社会が変わります。また、通常、SRI投資家は長期投資家です。それはマーケットの変動のショックをやわらげ、また長期的視点の経営を可能にしてくれます。その上、ESGのような、いわば企業の経営哲学を評価して投資する株主は、敵対的買収などに際して、会社の味方になってくれます。今後、日本の金融資産のほんのわずかでもSRIで動くことが、日本だけでなく世界の金融システムに大きなインパクトを与えることは容易にイメージできます。

本来、あらゆる社会システムは、人間社会の生活の充実と幸福の追求のためにあるのだから、金融もまた、それをめざしているはずで

す。日本は世界最速で高齢化社会に突入しています。女性の方が長命であることを考えると、高齢化社会は女性の社会です。今後は女性の感性や価値観に沿った商品やサービスが求められるでしょう。それは金融商品も例外ではありません。歴史的にSRIの担い手は女性であり、女性の経済力の伸長とSRI市場の成長がリンクしているとも言われます。SRIはいわば女性的資本主義、フェミニン・キャピタリズムとも言えるのかもしれませんが。日本では伝統的に家計の主導権を女性が握っていることを考えると、個人金融資産のSRI化は意外に早く、またもとの資金の巨大さから、世界の金融に与える影響も大きいのではないのでしょうか。なぜなら、日本のSRI資金は遅かれ早かれグローバル投資に向かうからです。その意味で世界を変え、金融の未来を変えるカギは、実は日本女性が握っていると言って過言ではなく、そのことは海外のSRI関係者の多くが指摘し、また大いに期待しているところでもあります。

【参考資料】

- 1) Euro SIF European SRI Study 2014, US Sustainable, Responsible and Impact Investing Trends 2014, 2014 Asia Sustainable Investment Review, 社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)「最新SRI市場残高」(2015年9月末)
- 2) 日銀資金循環統計2015年第4四半期速報(2015年12月末)
- 3) グッドバンカー調査による
- 4) 第一生命経済研究所 熊野英生氏 ダイアモンドオンラインより
- 5) 日銀資金循環統計2015年第4四半期速報(2015年12月末)

つくしみずえ グッドバンカー株式会社代表取締役社長。